

「妙音沢を訪ねて」

2016 年 8 月 17 日 吉澤有介

この夏は、やはり格別な猛暑になりました。かねてから予報は出ていたものの実際に 37 度にもなってみると、気温が体温を超えることの恐ろしさを、あらためて実感させられます。こんなときこそ山に入って、涼しい沢歩きをしたいところですが、米寿目前の高齢者にはやはりムリというものでしょう。そこで気分だけでも味わえる手を考えてみました。

ネットによると、日本一短い川というものがあるそうです。つい最近までは北海道のホンベツ川（2 級河川）の 30m でしたが、現在は、和歌山県那智勝浦町にある「ぶつぶつ川」の 13.5m が、新規に 2 級河川に指定されて、これが日本一になりました。

しかし首都圏にも、それに劣らない短い川があります。しかも水量豊かな湧き水で、深い自然林の中を流れるとあっては、見過ごすわけにはゆきません。それが埼玉県新座市にある「妙音沢」でした。大泉学園町の西端の武蔵野台地の崖下から流れて、一級河川の黒目川に注ぐ、およそ 30m ほどの清流です。どうやら江戸時代から知られていたらしく、その流れの音が琴の音のようだと名付けられたようなのです。

私は以前からこのあたりを散歩していて偶然見つけ、それ以来四季を通じて訪れてきました。僅か 30m ほどですが、足を入れるとクルブシのあたりまで来る快い流れです。



ほんとうに自然のままの清らかな流れで、これが 23 区のすぐ近くとは信じられないほどの仙境でした。新座市もようやく気がついたらしく、こんなホームページを出してきました。しかし数年前から余計な木道まで作っていて、これはいけませんね。せっかくの自然が泣いているようでした。それでも冷たい流れは変わりません。この暑さの中でも素足を漬けると、身体の芯まですっかり冷えて、久しぶりに沢歩きをした気分になりました。

<http://www.city.niiza.lg.jp/soshiki/22/myoonzawaryokuchihozenchiku.html>

ここにはパノラマビューも出ています。2 月の風景のようでした。「了」